

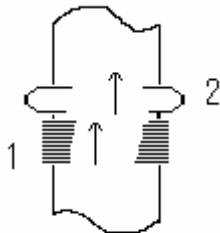
## フリーエネルギーの発見(3)

(魔法のコイル)

渡辺 満 (静岡県)

### §0 はじめに

… この魔法のようなコイルは、一見何の変哲もないコイルであるが、そこへ、鋭いパルス電流を入力すると、それを強化・増幅する作用を有している。  
…。



並走

前回の「フリーエネルギーの発見(2).pdf」では、コイル 1 に、鋭いパルス電流を入力すると、コイル 2 に生じる起電力は、コイル 1 とコイル 2 の磁束が、ちょうど、並走になるような向きになる。  
(上図)

そういう実験結果を見た。

電磁気学的には、逆走になりそうなものだが、こうなるのは、電磁ポテンシャルのせいではないか、とも書いた。

それならば、コイル 1 に対しても、同じ方向の起電力が、生じているのではないか？

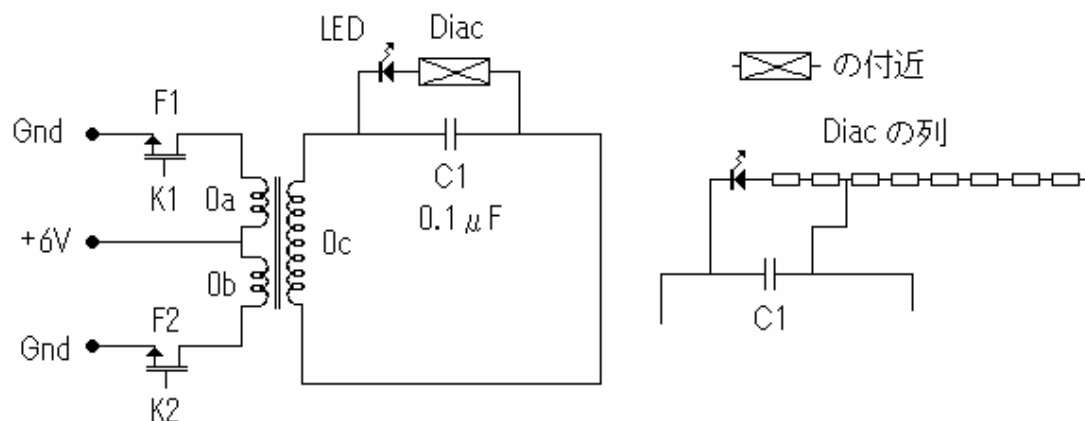
それが、コイル 1 の電流を、増幅しているかもしれない。

そう思ったので、コイル 2 を外し、コイル 1 のみにして、コイル 1 の起電力を見る実験を行った。

結果は実際、それらしいことが起きている、ように見える。

今回は、その詳細を書いた。

## §1 回路



「フリーエネルギーの発見(2).pdf」の § 1, § 2, § 3 に書いたものと同じ、  
 両方向パルス発生回路を作り、そこへ、  
 上図のように、LED、複数のダイアック、 $C1=0.1\mu\text{F}$ 、を追加する。  
 LED は 12V 用、電源は直流 6V。  
 ここで、ダイアックは、 $C1$  のおおよその電圧を知るために用いる。

### ●ダイアック(Diac)

「トリガーダイオード(ダイアック)DB3 ブレークオーバー電圧 32V」

このダイアックは、1 個で 32V の障壁を作る。

上図の回路で、例えば、2 個直列につなげば、 $32\text{V} \times 2 = 64\text{V}$  の障壁となり、  
 $C1$  の電圧が、それを超えないと、LED は発光しない。

さて、最初に、上図の回路で、ダイアックがいくつまで、LED が光るかを見る。

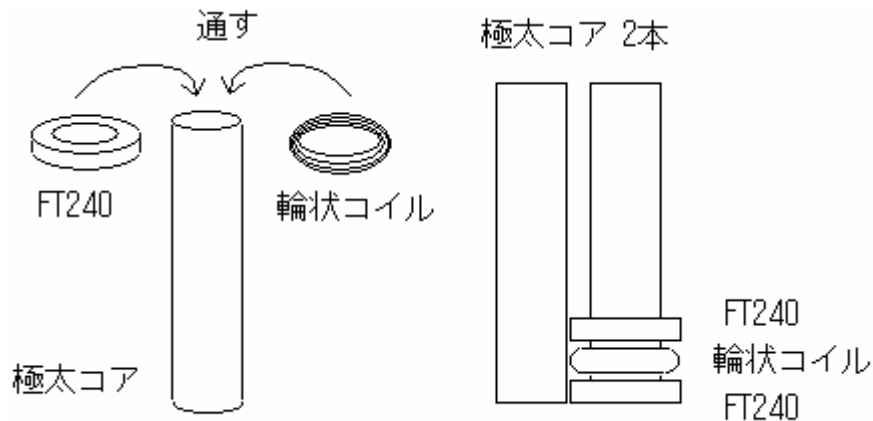
$K1$  の周波数を調整して、LED が最も強く光る所を捜し、( $K1$ =約 25kHz)

ダイアックの数を増やしていくと、この場合は 2 個が上限だった。

(3 個では光らない)、2 個だから  $C1$  は 64V。

次に示すように、この回路へコイル  $M$  を追加すると、  
 最高でダイアック 10 個まで、光るようになる。

## §2 魔法のコイル



中心のコアは、‘極太フェライト・コア’（34mmφ、長さ 200mm）で、  
購入先は、‘NPO法人 ラジオ少年’。

上図のように、このコアへ、トロイダルコア(FT240)を 2 枚と、輪状コイルを通す。

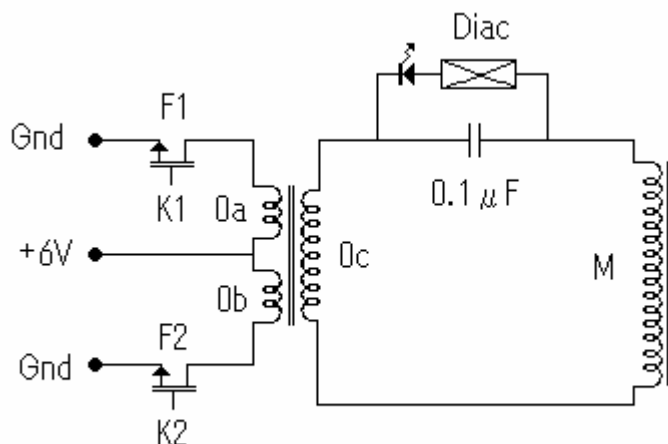
輪状コイルは、0.32mmφのポリウレタン銅線を 40m、

約 45mm径の輪状に巻いたもの。(約 280 回)

その横へもう 1 本、極太フェライト・コアを接触させて立てる。

(磁束を閉路にして、強くするため)

%注意: 極太フェライト・コアには、太さにバラツキがあり、  
購入したものの中には、FT240 の通らないものがあった。



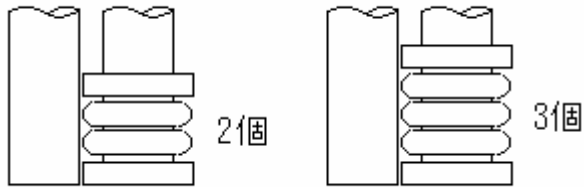
このコイルをコイル M として、前述の回路に追加する。

すると、ダイアック 8 個まで光った。(C1=256V、K1=約 4kHz)

そこで、さらに、同じ輪状コイルを 2 個(直列につなぐ)に増やしてみる。

すると、ダイアック 10 個まで、光るようになった。(C1=320V)

そこで、さらに、同じ輪状コイルを 3 個に増やしてみた。  
しかし、これはだめで、逆に下がった。2 個が上限らしい。



この起電力の増加について、  
普通なら、途中に余計なものが入ったのだから、それが邪魔をして、  
コイル 0C からの起電力は、低下するのではないか、そう考えたい。  
しかし、結果は思いもよらず、逆である。  
一方で、これは共振だから、単に、周波数が小さくなったために、  
振幅が大きくなった。  
それだけなのではないか？、そういう思いが脳裏をよぎる。

余談だが、2011 年 3 月 11 日の東日本大地震(M9.0)のとき、  
僕は、静岡県東部の道の上にいた。  
14 時 45 分頃、突然、大地が大きく横に動き出した。  
それは、非常にゆっくりした揺れで、周期が数秒ぐらいありそうなほど。  
正確ではないが、横揺れの幅は、50cm もあるかと思った。  
こんな地震は初めてだ。妙な地震だなと思った。  
向かいの小屋の馬を見ると、おびえた様子がない。  
これも、妙な地震だなと思った。  
このときの体験から、振動というのは、周期が長くなると、  
同時に、振幅も大きくなるものなのか、そう思った。

---

2016 年 12 月発行 V1.0

著者:渡辺 満, 発行者:渡辺 満

Copyright 渡辺 満 2016 年